

令和3年度（公財）兵庫丹波の森協会

令和3年度
丹波の森研究所活動報告

報告書

令和4年3月

（公財）兵庫丹波の森協会 丹波の森研究所

目 次

はじめに

1 令和3年度調査研究・活動報告

1-1 地域課題解決に向けた調査研究……………2

(1) 丹波地域における移住者増大と地域活性化に関する調査

(2) 丹波地域の地域再生のアンケート調査

(丹波篠山市西紀北地区と丹波市小川地区)

(3) 生物多様性の推進に向けた実践プロジェクトの提案

(4) 地域再生プロジェクトチーム会議

(5) 新たな移住推進の仕組み等の調査研究

(6) 戦略的推進モデル事業に係る連携プロジェクト

1-2 シンポジウム「丹波の森づくりの新展開に向けて」……………9

1-3 地域づくり支援事業……………11

(1) 地域づくりアドバイザー派遣

【資料編】

資料1：丹波地域における移住者増大と地域活性化に関する調査（2022年2月）

資料2：丹波地域の地域再生のアンケート調査（令和4年3月）

資料3：「令和3年度生物多様性の推進に向けた実践プロジェクトの提案（令和4年3月）」

資料4：地域再生プロジェクトチーム会議（第1回）

資料5：福住地区戦略的推進モデル事業に係る新たな移住推進の仕組み等の調査研究業務

資料6：福住地区戦略的推進モデル事業に係る連携プロジェクトアドバイザー業務報告書

資料7：シンポジウム「丹波の森づくりの新展開に向けて」開催に関わる企画および報告書の
とりまとめ業務

資料8：シンポジウム報告書

資料9：「丹波の森研究所地域づくりアドバイザー派遣報告書」

はじめに

丹波の森研究所は、「丹波の森構想」（人・自然・文化・産業の調和した丹波地域づくり）を推進するシンクタンクや支援組織をめざして、平成8年（1996年）、財団法人丹波の森協会（現、公益財団法人兵庫丹波の森協会）によって設けられました。中瀬勲所長を中心に、地域づくりに関する諸分野に関する調査研究を行ってきましたが、平成28年度をもって退任され、平成29年度は、関西学院大学の角野幸博先生を新所長に迎え、新たなスタートとなりました。

平成30（2018）年度は「丹波の森構想」30周年であり、また県政150周年となる節目の年度でした。11月には「丹波の森宣言30周年記念シンポジウム」が開催され、「これからの丹波の森づくり」の骨子が提案されました。丹波の森研究所では、新たな課題として提案されたうちの「集落に住み続けるための集落再生・活性化」と「生物多様性の保全に向けた取り組み」を研究テーマとして調査研究を進めています。

今後丹波の森研究所としては、こうした社会的課題の解決に役立てていくよう求められています。その意味においても、丹波の森研究所としても新たな展開を図るべきところにあります。

丹波の森研究所の主たる業務は、地域づくりにおける相談、アドバイス、情報提供、学習会などを通じた地域づくりの支援のほか、丹波の森づくりに関する調査研究、講演や報告会などを通じた啓発・普及、行政の施策・事業に関するアドバイザー協力を行うほか、「丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム推進協議会」の調査企画部分を担っています。

■丹波の森研究所 所員 （令和4年3月現在）

| | |
|-------|-------------------|
| 研究所所長 | 角野 幸博（丹波の森公苑長兼務） |
| 研究所次長 | 大垣 至康（丹波の森協会事務局長） |
| 主任研究員 | 門上 保雄 |
| 特任研究員 | 上甫木 昭春 |
| 登録研究員 | 上岡 典子 |
| | 横山 宜致 |
| | 片平 深雪 |
| | 小橋 昭彦 |
| | 出町 慎 |
| | 谷垣 友里 |
| | 門上 幸子 |
| | 垣内 敬造 |
| | 宮川 五十雄 |

1 令和3年度調査研究・活動報告

1-1 地域課題解決に向けた調査研究

(1) 丹波地域における移住者増大と地域活性化に関する調査

(資料1:「丹波地域における移住者増大と地域活性化に関する調査(2022年2月)」報告書参照)

1) 調査研究の背景

近年、人口減少や高齢化などにより、小規模集落化が顕在化している。丹波地域においても地域の約7%が小規模集落(世帯数50戸以下で高齢化率(65歳以上比率)が40%以上の集落、市街地およびその周辺、駅周辺などを除く)となっており、早急な対策が求められている。こうした小規模集落再生のためには、人的資源および地域環境をいかに継承し得るかといった課題に対して、人材定着のための地域資源の魅力化と再生補正策の検討が必要とされる。

2) 調査研究の目的および内容

本研究は、丹波地域における小規模集落再生に向けた基礎情報を把握するために、地域環境の魅力性の発掘と意識評価を実施し、人材定着のための地域環境の魅力化と再生方策の検討を目的とする。

調査では、神楽地区及び福住地区におけるアンケート調査を実施し、地域環境の魅力性に対する認識度と重要度などを評価し、地域再生に資する地域環境資源の活用のあり方を探る知見を得る。

3) 調査研究の対象地区

丹波地域において、近年移住者増進に向けた取り組みが活発で、かつ移住者数も相対的に多い、丹波市神楽地区および丹波篠山市福住地区を対象とする。

4) アンケート調査の内容

地域再生に資する地域環境の魅力化の今後の活用などを把握するためアンケート調査を以下脳ように設計した。

- ・既存居住者および移住者の地域への愛着、地域環境に対する評価の差異を明らかにする
- ・集落機能を維持するための地域活動に対する居住者および移住者の意識の差異を明らかにし、移住者にも支持される地域活動のあり方を探る
- ・2地区内の各集落における小規模集落化の程度と地域活動に対する住民意識との関係を明らかにし、小規模集落化がより進行する集落での地域活動のあり方を検討する
- ・丹波地域の移住者増大に向けて重要となる促進施策のあり方を探る

5) アンケート調査のまとめ

①校区に対する意識と地域活動に関する2地区共通の傾向

- ・校区に対する意識については、2地区とも地元居住者と移住者とも地域への愛着は高い
- ・全体としては、自然環境や食・住などの生活環境は肯定的に評価されている一方、インフラや公共施設などの面は評価が低い。
- ・地域活動に関しては、コミュニティ形成（防犯・防災活動、まつり等）に関する地域活動は、参加状況は高くないが今後の参加意向は増加傾向にある。
- ・住民同士の懇親会や伝統的なまつりなどの活動は、2地区とも参加意向は高い。
- ・重要度については防災活動をはじめとするコミュニティ形成に関するものが特に高い。
- ・小規模集落化が進行した集落ほど地域活動に対する評価が低下するといった傾向はみられなかった。

②地域別にみた校区に対する意識と地域活動の動向

- ・神楽地区の移住者は自然資源の保護や利用に関心が高い傾向にある。
- ・福住地区では、伝統的なまちなみや暮らしのサポート体制などが移住者にも高い評価を得ていた。

③移住促進策に対する考え方

- ・施策の中で特に「移住希望者への田舎暮らしや自治会ルール等の丁寧な説明」や「移住者が地元居住者や先輩移住者に相談できる環境づくり」は最も期待される施策である。

（資料2：「丹波地域における移住者増大と地域活性化に関する調査（2022年2月）」報告書参照）

(2) 丹波地域の地域再生のアンケート調査（丹波篠山市西紀北地区と丹波市小川地区）

（資料2：「丹波地域の地域再生のアンケート調査（令和4年3月）」報告書参照）

本アンケート調査は、「丹波地域における移住者増大と地域活性化に関する調査（2022年2月）」におけるアンケート調査対象の2地区（丹波篠山市福住地区、丹波市神楽地区）の補完的調査として行った。

1) 調査対象鉦区の地区特性

- ・集落の小規模化は福住地区が最も高く、以下、福住＞神楽＞西紀北＞小川の順である。
- ・地域づくりへの取組の程度は福住地区が最も高く、以下、福住＞神楽＞西紀北＞小川の順である。

2) アンケート調査の内容

- ・「丹波地域の地域再生のアンケート調査（令和4年3月）」と同じ内容である。

3) 考察（4 地区比較）

- 地域づくり活動への参加状況では、多くの地域活動で小川地区が最も低い値を示した
- 地元住民と移住者との相互交流に着目すると、西紀北地区が交流度合いが最も高く、西紀北＞福住＞神楽＞小川の順であった。
- 居住地特性と相互交流からみた居住者特性を合わせてみると、西紀北地区の参加程度の高さは、地元住民の相互交流の多さが寄与していると類推される。
- 地域活動への参加状況と地元住民と移住者間での相互交流との関係を見ると、地域住民と移住者との交流が大のグループでは、いずれの地域活動でも顕著に参加が多い傾向にある。
- 地域活動の活発化には、小規模集落化の程度といった潜在的な課題、その課題に対応するための地域づくりへの取り組みといった居住地特性に加えて、地域住民と移住者の相互交流といった居住者特性を活発化することが寄与することが確認された。
- 上記の考察より、地域活動の活発化には集落住民の自助努力に加えて、移住者との交流による活性化が認められ、地元住民と移住者との交流の機会の創出やその場づくりが重要な要因となることが推察される。

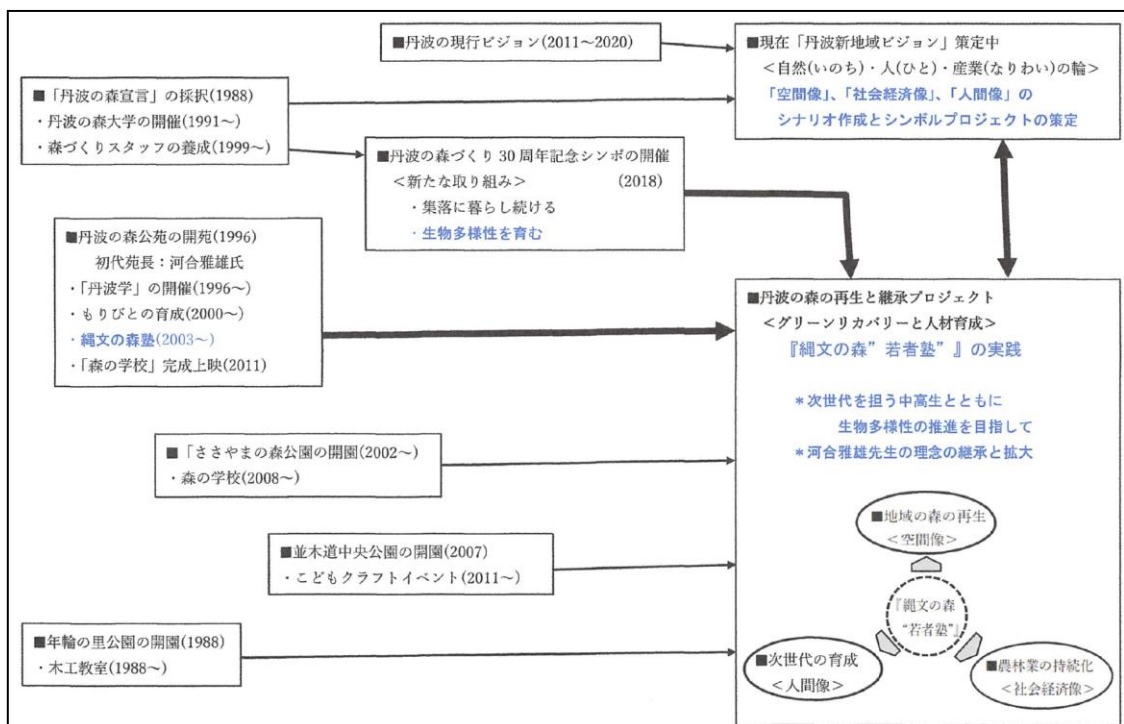
（資料 2：「丹波地域の地域再生のアンケート調査（令和 4 年 3 月）」報告書参照）

(3) 生物多様性の推進に向けた実践プロジェクトの提案

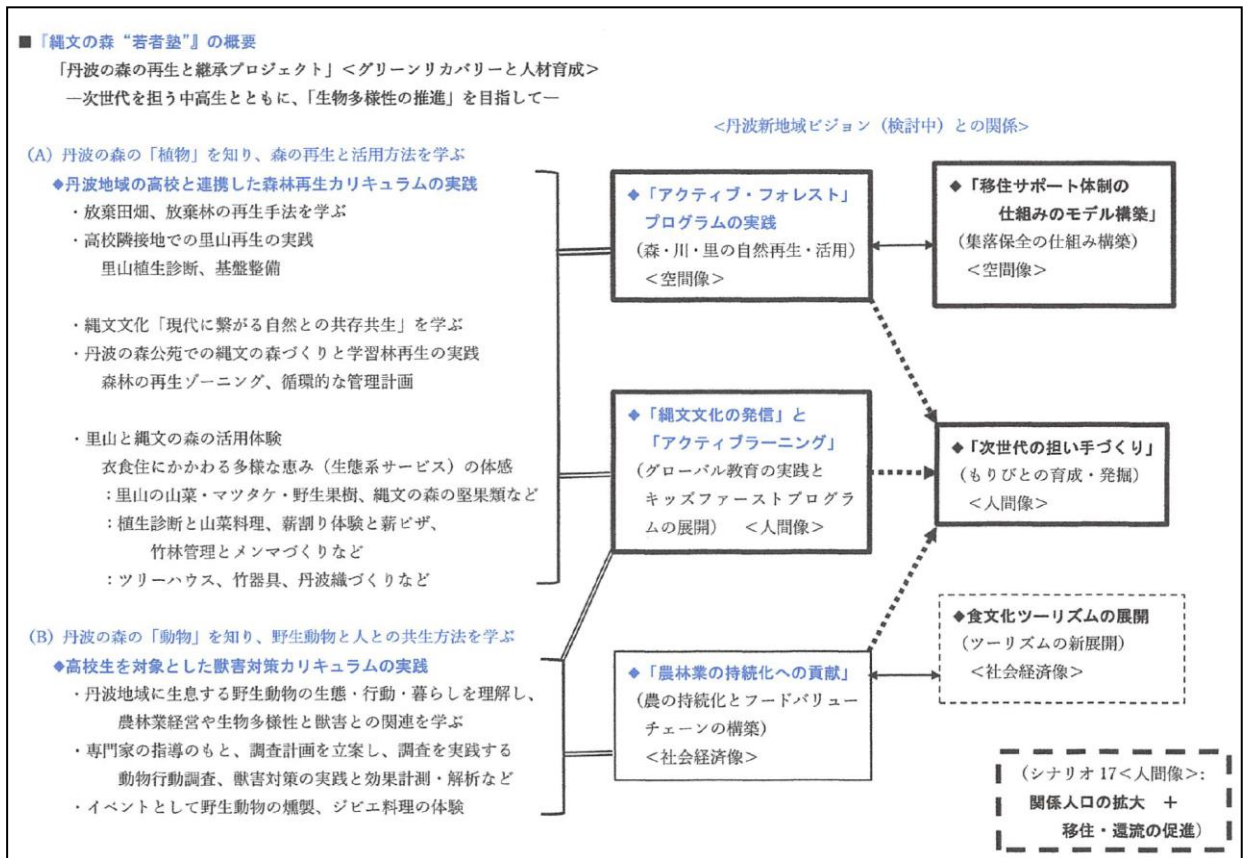
（資料 3：「令和 3 年度生物多様性の推進に向けた実践プロジェクトの提案（令和 4 年 3 月）」報告書参照）

1) 全体の枠組み

本業務は、平成 30 年 11 月に開催された「丹波の森づくり 30 周年記念シンポジウム」で提案された新たな方向性として「生物多様性を育む」に取り組むこととなった。



丹波の森公苑をベースとして、生物多様性の推進に向けた実践プロジェクトの提案では、『丹波の森の再生と継承プロジェクト』をテーマとして、次世代を担う中高生とともに「生物多様性の推進」を目指して、グリーンリカバリーと人材育成につなげていこうとしている。



2) 植物調査編

・「植物」を知り、森の再生と活用方法を学ぶ

①春編

(a) 氷上高校 春の里山の恵みマッピング

| | |
|------|---|
| 企画概要 | 氷上高校の圃場周辺を歩き、春の山菜や薬草・毒草を見分け、地図上にマッピングする。シカやイノシシなどの痕跡もあわせて見つけ、植生への影響を考える。山菜数種をピックアップして、試食する。 |
| 対象 | 氷上高校生 |
| 人数規模 | 1班(5人)～1クラス規模まで |
| 会場 | 氷上高校圃場およびその周辺、(調理スペース) |
| 時間 | 通常の授業2コマ続き程度(1コマ散策、1コマ試食+マッピングまとめ) |

| | |
|-------|--|
| 資材・道具 | 圃場地図コピー、採集袋（ビニール袋で可）、剪定ばさみ 料理セット（てんぷら粉、油、油用鍋、湯用鍋、菜箸、皿、割り箸、塩、マヨネーズ、カセットコンロ?など） |
| 教材 | 山菜図鑑類、植物図鑑類（あれば） |
| 日程 | 授業 1 回（5 月 GW 明け頃）／下見 1 回（授業の 1～2 週間頃） |

②夏休み編

(b) 丹波の森公苑内での若者の参画による縄文の森づくりと学習林の再生

| | |
|-------|--|
| 企画概要 | 里山再生の実践体験。森林植生・景観の見方・調べ方を体験し、数年先・数十年先を見据えた森林の手入れも体験する。特に、山菜・薬草資源のマッピングや、昔の里山循環利用のゾーニングを現地で学び、森林整備の実作業も体験することにより、これからの森づくりへの参加意識を高める。 |
| 対象 | 高校生（丹波市内の高校に告知） |
| 人数規模 | 1 班（5 人）～1 クラス規模まで |
| 会場 | 丹波の森公苑 |
| 時間 | 通常の授業 2 コマ続き程度（1 コマ散策、1 コマ試食+マッピングまとめ） |
| 資材・道具 | 公苑地図コピー、採集袋（ビニール袋で可）、剪定ばさみ 料理セット（てんぷら粉、油、油用鍋、湯用鍋、菜箸、皿、割り箸、塩、マヨネーズ、カセットコンロ?など） |
| 教材 | 山菜図鑑類、植物図鑑類（あれば） |
| 日程 | 7 月下旬（夏休み）／下見・準備 2 回程度 |

3) 野生動物編

①主旨

野生動物と共生可能な地域づくりのための人材育成として、若年層（高校生や大学生等）を対象に、野生動物の本来の生態や行動、生態系の構成員としての役割等に理解を深めるとともに、人と野生動物の歴史や現代的課題を知り、人と野生動物の共生の未来に向けて考える。

②対象

丹波地域の高校生、地域外の高校生・大学生・20 代くらいまで

③スケジュール

| | 午前 | 午後 | 夜 |
|-----|--------------|------------|--------------|
| 1日目 | | ガイダンス+目標設定 | ニホンザルの講義 |
| 2日目 | ニホンザル生態・行動観察 | 農家インタビュー | 調理 |
| 3日目 | 2日目の結果をまとめる | ニホンジカの講義 | シカのライトセンサス調査 |
| 4日目 | 3日目の結果をまとめる | 感想共有 15時終了 | |

1日目



- 13:00 ガイダンス・個人の目標設定
- 15:00 ニホンザルの生態について
- 16:30 センサーカメラ設置
- 17:30 入浴
- 18:30 食事（ユニットピア）
- 19:15 ニホンザルの性年齢判別
- 20:45 翌日の確認
- 21:00 終了

3日目



- 8:00 朝食（ユニットピア）
- 9:00 前日の結果まとめ
- 12:00 昼食（ユニットピア）
- 13:00 ニホンジカの生態・行動について
- 15:00 準備
- 15:30 シカ・イノシシの痕跡調査
- 17:30 休憩
- 18:00 食事（ユニットピア）
- 19:00 翌日の確認
- 19:30 ライトセンサス出発
- 21:30 入浴～就寝

2日目



- 6:15 朝食（ユニットピア）
- 7:00 出発
- 8:00 ニホンザル行動観察
- 11:00 移動
- 12:00 昼食（現地で）
- 13:00 ICT捕獲檻見学
- 14:00 農家インタビュー
- 15:30 夏野菜収穫
- 16:00 移動
- 17:00 食事準備
- 18:30 食事（ユニットピアBBQ）
- 19:30 入浴
- 20:30 翌日の確認
- 21:00 就寝

4日目



- 8:00 朝食（ユニットピア）
センサーカメラ回収
- 9:00 3日目の結果まとめ+全体の気づき
- 12:00 昼食（ユニットピア）
- 13:00 全体のまとめ発表
- 14:00 初日の目標設定に対してのふりかえり・気づき
- 15:00 終了・解散

（資料3：「令和3年度生物多様性の推進に向けた実践プロジェクトの提案（令和4年3月）」報告書参照）

(4) 地域再生プロジェクトチーム会議

(資料 4：地域再生プロジェクトチーム会議（第 1 回）参照)

1) 会議の趣旨

- ・ 県民局の地域再生大作戦の事業解説とともに、丹波の森研究所の調査研究「集落の再生・活性化方策の検討」をテーマとして、丹波篠山市および丹波市の地域づくり担当者および丹波の森研究所の研究者による意見交換を行った。
- ・ 今年度はコロナ禍のため 1 回開催となった。(令和 3 年 10 月 26 日)

2) 第 1 回地域再生プロジェクトチーム会議（令和 3 年 10 月 26 日）

今年度の調査研究テーマ「生物多様性の推進」と、地域再生大作戦「未実施集落元気度調査」、および丹波県民局事業についての意見交換を行った。

(資料 4：地域再生プロジェクトチーム会議（第 1 回）参照)

(5) 新たな移住推進の仕組み等の調査研究

(資料 5：福住地区戦略的推進モデル事業に係る新たな移住推進の仕組み等の調査研究業務報告書参照)

1) アンケート調査の内容

- ・ 実施時期：2021 年 4 月～5 月
- ・ 配布数：福住校区全世帯 662 部
- ・ 回収率：27.6%

2) 移住促進策について

- ・ 設問のうち特に着目された点は、「移住者への田舎暮らしや自治会ルール等の丁寧な説明」の設問に対して 82.3%が、「移住者が地元居住者や先輩移住者に相談できる環境づくり」が 76.9%と高かった。
- ・ 一方、重要度の評価が相対的に低い移住促進策は、「移住者が企画するイベントや活動」で 60.9%であった。

(資料 5：福住地区戦略的推進モデル事業に係る新たな移住推進の仕組み等の調査研究業務報告書参照)

(6) 戦略的推進モデル事業に係る連携プロジェクト

(資料 6：福住地区戦略的推進モデル事業に係る連携プロジェクトアドバイザー業務報告書参照)

1) 検討内容

- ・ 移住サポート体制の仕組み構築に向けた検討
- ・ 地域課題にマッチングする移住スタイルと移住者促進の展開手法の検討
- ・ 校区単位での移住促進ビジョンの策定

(資料 6：福住地区戦略的推進モデル事業に係る連携プロジェクトアドバイザー業務報告書参照)

1-2 シンポジウム「丹波の森づくりの新展開に向けて」

一次代のもりびとと共にー

(資料 7: シンポジウム「丹波の森づくりの新展開に向けて」開催に関わる企画および報告書のとりまとめ業務参照)

(資料 8: シンポジウム報告書参照)

(1) 開催概要

1) 趣旨

1988 年の「丹波の森宣言」で始まった丹波の森づくりの 30 周年記念事業 (2018) を受けて、現在その一環として UIJ ターン者と創る地域の新たな活力を考えるシンポジウムを開催します。具体的には、移住者増大と地域再生に向けた丹波地域でのこれまでの取り組みから、今後の移住スタイルのあり方を次代のもりびとと共に探ります。

2) 開催日時

2021 年 8 月 9 日 (月・振替休日) 午後 1 時 30 分～4 時

3) 開催場所

丹波の森公苑 大ホール

4) 開催団体

主催：公益財団法人 兵庫丹波の森協会

共催：丹波県民局、丹波篠山市福住地区まちづくり協議会、丹波市神楽自治振興会

後援：丹波篠山市、丹波市

5) プログラム

- ・開会あいさつ：(公財) 兵庫丹波の森協会理事長 酒井 隆明
- ・シンポジウム趣旨説明：丹波の森公苑長・丹波の森研究所長 角野 幸博

<第 1 部：丹波の森研究所における調査研究の報告>

- ・地域活動の実態と小規模集落化との係わり
上甫木 昭春 (丹波の森研究所)
- ・移住者増大に向けた取り組みと課題
大平 和弘 (兵庫県立大学自然・環境科学研究所講師)

- ・地域環境の魅力と課題
上田 萌子 (大阪府立大学)

- ・二地域居住の実態と今後の可能性と課題
出町 慎 (丹波の森研究所、佐治倶楽部代表)

<第 2 部：これからの移住スタイルについて>

- ・丹波県民局でのこれからの取り組み
兵庫県丹波県民局長 今井 良広

<パネルディスカッション>

- 地元住民＋地域コーディネーターの立場から
足立 仁（神楽自治振興会、佐々木 幹夫（福住地区まちづくり協議会）
- 移住者＋地域サポーターの立場から
中川 ミミ（丹波市への移住者）、安達 鷹矢（丹波篠山市への移住者）
- 地域再生の専門家の立場から
出町 慎（丹波の森研究所、丹波市への移住者）
平櫛 武（兵庫県地域再生アドバイザー、ひょうご関係人口案内事務局）
- コーディネーター
上甫木 昭春（丹波の森研究所）

6) 閉会あいさつ

（公財）兵庫丹波の森協会監事 細見 正敏

（資料 7：シンポジウム「丹波の森づくりの新展開に向けて」開催に関わる企画および報告書のとりまとめ業務参照）
（資料 8：シンポジウム報告書参照）

1-3 地域づくり支援事業

(1) 地域づくりアドバイザーの派遣

(資料9:「丹波の森研究所地域づくりアドバイザー派遣報告書」参照)

1) アドバイザー派遣重点地区の支援

- ・地域づくり重点地区への支援としてのアドバイザー派遣は、主に森研究所の研究員が地域づくり支援を行います。最近では、集落だけでなく、高校や小学校からも、現況把握や問題整理など、ワークショップによる課題解決のための支援要望があり、若い世代の地域づくりの関心を高める取り組みとしても考えています。

2) アドバイザー派遣実績

①丹波篠山市河原町地区（3回/令和3年11月6日～令和4年3月19日）

- ・アドバイザー業務（上岡研究員）
- ・河原町通り無電柱化完成記念）鉾修復実行委員会コーディネート
- ・着脱の平易さを考慮した形態を検討（細竹網のかぶせやすさ）
- ・基軸の、屋根だけではなく、心柱等全体で受け止めれる形態の検討
- ・会所での展示形態も考慮した形態を検討

②福住地区まちづくり協議会

- ・本協議会は、兵庫県の補助事業の「戦略的移住推進事業」における計画策定、活動支援、移住コーディネーター支援、移住促進支援について具体的な展開方策を検討する会議である。
- ・昨年度策定された計画に基づき、展開方策について協議会参加者と検討を行うとともに、これまでの他地区での事例等を示し、アドバイスを行った。
- ・移住促進策として、短期～中期間滞在できる拠点づくり。若者やIT事業者を対象とし、滞在消費とともに域内事業の活性化を図る。補助事業の住環境整備支援などを活用し、拠点整備を行う提案。
- ・中期間滞在できる「お試し居住」のニーズは高いと思われる。そうした場を介在しての情報収集も可能。県民局と協議を進める。対象となる空き家についての対応、
- ・こうした事業実施をビジネス化することで、事業の継続、移住促進の継続を図る提案（特定地域づくり事業協同組合）があった。

(資料9:「丹波の森研究所地域づくりアドバイザー派遣報告書」参照)